

ずいそう

不思議の国 インド

安田 智之



私は前職の測量機器メーカーのインド現地法人に2010～2014年に駐在していた。今や世界一の人口を抱え、近々にGDPでは日本を追い超すと言われるインド、日本とは異なるインドについて駐在時代に感じた事を記す。

1. インド人はおしゃべり？

インド人はとにかくよく喋る。自己主張が強くないと埋没してしまうせいか、インド訛りの強い英語で延々と喋り続ける。国際会議の成功の秘訣は「いかにインド人を黙らせ、日本人を喋らせるか」と言われている。

またインド人は実に言い訳上手である。日本だと「言い訳をせず、素直に謝りなさい。」と教育されるが、インドは逆で、咄嗟にいくつかの言い訳を言えるような教育を受けているようだ。遅刻やドタキャンの言い訳には毎回いろんな言い訳があって、今となれば面白かった思い出である。

よく使われる口癖として「No Problem」があるが、概して“Big Problem”な事が多い。また「Wait a minute」は“ちょっと待って”の意味だが、「Wait 2 minutes」は“何時になるかわからない”時に使う慣用語だった。

2. Own Risk という考え方

Own Risk（自己責任）という考え方が強い。デリー郊外に古代遺跡があるが、上まで登ると柵がない。インド人の同僚に、なぜ安全の為に柵を設けないのかと聞いたら「危ないと思うなら登らなければいいじゃない。」という返答。つまり自分で判断し、落下したらそれは自己責任だよ、という考え方である。嘘をつかれた時もあったが、指摘すると「俺は確かに嘘をついた。でも信じたお前が悪い。」という答えが返ってきた事もあった。

3. インドのカレーと飲酒事情

ご推測の通りほぼ毎食カレーであるが、多種多様なカレーがあり、いわば日本人が毎食醤油味や味噌味を食しているのと同じ感覚である。

また、インドにはお酒を飲めない州があり、例えばガンジーやモディ現首相の出身州グジャラート州ではお酒を飲めない。他の州でも年に数日ドライデーがあり、飲食店での酒の提供や酒屋での酒類販売はNGである。どうしても飲みたい日本人は行きつけの日本や韓国料理店にこっそり頼み、湯飲みでビールを飲んでいた。



写真-1 ガンジス川の沐浴風景

4. IT 王国インドとカースト制度

Google やマイクロソフト等、著名な IT 経営者にはインド出身が多い。もちろんインド人は頭の回転が速く、極めて論理的である。下層カーストの優秀な人材が、カースト制度には存在しない IT エンジニアを目指すという説もある。名門の IIT (Indian Institutes of Technology: インド工科大学) には下層カースト出身の優秀なエンジニアの入学枠があるそうだ。

法律的にはカースト制度は存在しないのだが、結婚では未だに根強く残っているようだ。同一カースト同士の結婚を良しとし、下位カーストとの結婚は親戚中の問題となるらしい。よってインドではお見合い結婚が多いが、最近は都市部を中心にカーストにとらわれない結婚も増えているようである。

5. インドは多民族国家

インド人と一言で言っても、実に多くの民族・言語・宗教が存在する。言語的には全く異なるが、公用語であるヒンドゥーに加えてローカル言語や英語を自由に操る人は多かった。

宗教的にはヒンドゥー教徒が 80% を占めているが、総人口 13 億人を抱えるインドでは約 1.8 億人のイスラム教徒が暮らしており、インドネシア・パキスタンに次ぐ第 3 位という世界有数のイスラム国家でもある。

6. インド人はみんなターバンを巻いている？

日本ではインド人というとターバンを巻いているイメージが多いだろうが、実はごく限られた人しか巻いていない。パンジャブ州に多いスィーク教徒がターバンを巻き、銀のリングと（以前は）小刀を差す。肌に刃物を当てない教義ゆえ、ターバンの中に髪の毛を撒き、立派な髭を蓄えている。体格も良くスィーク教徒



写真—2 路上の理髪店

独自の軍隊もある。海外で活躍するスィーク教徒も多い為、インド人＝ターバンのイメージが根付いたのだろう。

7. インドの電力事情と電化製品

今は改善していると思うが、10 年前は 1 日に数回停電が発生していた。オフィスやアパートには発電機が常備され、停電と同時に発電機のスイッチが入る。最初はビックリしたものだが、そのうち慣れてしまうと真っ暗になっても食事や会議を続けていた。

またインドの家電は壊れる事が多かった。スタビライザーも付いてるが、電圧が安定しないせいか度々調子が悪くなる。あまりに壊れるので大家さんに文句を言うと、「Mr. Yasuda, 機械は壊れるもの、壊れない機械はない。」と言われ、変に納得したものだ。

8. インドのお勧め本・映画・娯楽

妹尾河童著「河童が覗いたインド」がお勧めだ。作者の緻密なイラストと共にインドでの体験談が面白く綴られている。インド赴任前に当時の上司からこの本を贈られ大変心強かった記憶がある。

インド映画は踊りにハチャメチャなストーリーと括られがちだが、秀逸な作品も多々ある。数ある中でも特にお勧めは「3 idiots (邦題: きっと, うまくいく)」。

名門工業大学に通う 3 人が社会の理不尽さ、身分制度を風刺しながら笑いあり、涙あり、踊りありの秀作だ。また、日本に比べると圧倒的に娯楽が少ないインドだが、中でもゴルフは人気があった。デリー郊外に 6 ヶ所ほどゴルフ場があり、日本人、韓国人で 80% くらい、残りはインド人、白人がプレーしていた。各プレーヤーに 1 人ずつキャディ（男性のみ）が付き、ご祝儀目当てのホールインワンが異常に多い名物ホールもあった。

9. おわりに

全ては私が見聞きした範囲のものである。確たる実証はないので、信じるかどうかは Own Risk (自己責任) でお願いしたい。インドにまだ行かれてない方は是非一度来訪してほしい。そこには日本や西洋にはない何かがある筈である。今夏に娘がインド ムンバイに駐在になった。親子 2 代のインド勤務となり、何かしらの縁を感じているインドである。